

2023 明治安田生命 J3 リーグ 第 32 節 vs. 奈良クラブ

10/22 (日) 19:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場



2023 J3 順位表 第31節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

| | | | | | | | |
|----|------|-----|-----|----|----|-----|-----|
| 1 | 愛媛 | 58p | +8 | 48 | 40 | A● | H△ |
| 2 | 鹿児島 | 51p | +14 | 49 | 35 | HO | A● |
| 3 | 富山 | 49p | +4 | 45 | 41 | HO | |
| 4 | 今治 | 47p | +10 | 42 | 32 | H△ | AO |
| 5 | 鳥取 | 47p | +5 | 46 | 41 | AO | HO |
| 6 | 松本 | 46p | +6 | 46 | 40 | H△ | A△ |
| 7 | FC大阪 | 45p | +8 | 34 | 26 | H● | A△ |
| 8 | 沼津 | 45p | +5 | 41 | 36 | A△ | HO |
| 9 | 奈良 | 44p | +11 | 35 | 24 | A● | |
| 10 | 岐阜 | 44p | +9 | 36 | 27 | --- | --- |
| 11 | 岩手 | 43p | +4 | 42 | 38 | H△ | |
| 12 | 八戸 | 42p | -1 | 36 | 37 | A● | |
| 13 | YS横浜 | 42p | -4 | 41 | 45 | H● | A● |
| 14 | 福島 | 39p | -5 | 29 | 34 | AO | H● |
| 15 | 長野 | 38p | -11 | 38 | 49 | H△ | AO |
| 16 | 讃岐 | 36p | -15 | 22 | 37 | AO | |
| 17 | 琉球 | 36p | -16 | 35 | 51 | HO | |
| 18 | 宮崎 | 34p | -12 | 24 | 36 | A● | H△ |
| 19 | 相模原 | 33p | -7 | 34 | 41 | HO | A△ |
| 20 | 北九州 | 24p | -13 | 23 | 36 | A△ | |

次回HomeGame

第34節 vs. ヴァンラーレ八戸

11/4 (土) 15:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯

煮込み珍道中
串かつ

14:30 ~ 22:00
※売り切れ次第、終了です
火、水、金、土 (祝日除く) 営業
TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10 分

★ アミカ

ドミー
イン

JR
岐阜駅

today's guest : 奈良クラブ

2022 JFL 16勝11分3敗 勝ち点59:優勝

直近の対決と結果

2023/07/09
J3 - 17節 @ロートF

奈良 1-0 岐阜

ここ3試合の公式戦の結果

| FC岐阜 | 奈良クラブ |
|--|--|
| 2023/10/15 J3 - 31節 @花園 FC大阪 1-1 岐阜 | 2023/10/14 J3 - 31節 @ロートF 奈良 1-1 福島 |
| 2023/10/08 J3 - 30節 @長良川 岐阜 2-1 沼津 | 2023/10/08 J3 - 30節 @ニッパツ YS横浜 1-0 奈良 |
| 2023/10/01 J3 - 29節 @長良川 岐阜 0-1 福島 | 2023/10/01 J3 - 29節 @ユニスタ 宮崎 0-1 奈良 |

奈良クラブ:

1991年に都南クラブとして創設。2008年に奈良クラブに改名。2014年の地域決勝で優勝し翌年からJFL。2022年JFLで優勝し翌年からのJ3参戦を決める。JFLにはHondaなどの強豪アマチュアチームがあるので、JFL優勝でJ3参戦を決めるのは稀有なこと。(吉田鑄造)

●勝負の10月期となったFC岐阜。10/8 (日) 第30節・ホーム沼津戦は、試合開始早々に#9 山内寛史のゴールで先制し、#7 村田透馬の追加点で前半に2点差をつけて折り返す。後半も岐阜が攻勢に出るも3点目を奪えずにいと、攻撃のギアを入れた沼津に1点を返される。その後は守備に追われる岐阜だったが、1点差を守り抜いて2-1。6試合振りに勝利を手に入れた。続く10/15 (日) 第31節・アウェイFC大阪戦は重要な上位対戦。前半は岐阜が終始ゲームを支配してシュートも撃つが、精度が悪く先制点を奪えない。後半も岐阜のペースで試合が進むが、カウンターで簡単に先制点を許してしまう。まず同点にするべく攻撃を続ける岐阜だが、やはり精度を欠いてゴールが生まれぬまま時間が過ぎ、#18 田中順也のゴールで同点に追いついたのは、後半88分。追加点は奪えずに1-1の引き分けとなってしまった。

さて、この2試合で1勝1分だったFC岐阜の順位は10位のまま。首位・愛媛も1勝1分得勝点差14は変わらず、2位 (=J2昇格圏)・鹿児島が1勝1敗で勝点差が7に縮まった。ただし2試合で縮めた勝点差が1。前号の『岐大通』(第29節時点)と比較すると、2位・鹿児島の1試合あたりの勝点が現時点で1.64 (前号1.65) で最終節の予想勝点は62.51 (前号62.89)。これを追い抜くために岐阜に必要な勝点は、1試合あたり2.64 (前号2.54)。今季J3の残り7試合を全勝しても岐阜の勝点は65。残念ながら、前号時点よりもさらに厳しい状況になっている。もう1試合も落とせない背水の陣だが、そんな状況でも、1試合ずつ勝利していく積み重ねこそが重要だ。そしてリーグ戦を最後まで全力で戦い抜いて、ひとつでも多くの勝利、ひとつでも上の順位を目指すこと、その姿勢をクラブを応援する地域の人々に示すことも、プロサッカークラブとして重要な目的であり、目標だ。ましてやホーム戦、まずは目の前の、この試合での勝利。そこに毎試合こだわらなければ、高いハードルなど越えられるはずがない。

さて、今節の対戦相手は奈良クラブ。昨季はJFLで優勝し、今季J3に初参入したチームだ。昨季優勝した勢いそのまま、スペイン人のフリアン・マリン・バサロ監督3年目体制で臨んだ今シーズン序盤は好調で、第9節には首位に。しかし徐々に順位を落としてゆき、前半戦は8位で折り返す。直近5試合の成績は1勝2分2敗・3得点4失点で現在は9位だが、岐阜より上位の対戦相手であることには変わりがない。そして総得点35・失点24 (リーグ最少) というチーム状況は非常に岐阜と似ている。相手の堅い守備を崩せた方が勝つ、緊迫した試合になるだろう。奈良との対戦成績は1敗・1失点。その対戦は7/9 (日) 第17節・アウェイ戦。試合終盤AT、岐阜が決定機を迎えても決められず、最後のプレーで#29 浅川隼人に決勝点を奪われて0-1。衝撃的な敗戦の記憶を拭い去るためにも、この試合ではしっかりと勝ち切りたい。

奈良で最も警戒すべき選手には、先述の#29 浅川隼人を挙げる。現在14ゴール・得点ランキング2位、奈良の得点源を断つことが勝利のための絶対条件だ。ただし、#29 浅川ばかりに気をとられると、直近5試合で2ゴール・通算6ゴールの#19 酒井達磨を自由にさせてしまうので、そのバランスも重要だ。また、中盤の#14 中島賢星は岐阜に在籍 (2017年~2021年) していた選手で、2022年には相模原に所属 (同シーズンの相模原には#15 浮田健誠と#40 川上竜が所属) していた。そして、岐阜の#19 松本歩夢と奈良の#39 塚阪翔太は2016年G大阪U23でチームメイト。かつての仲間同士だからこそ、激しいマッチアップにも注目したい。

猛暑から急に冬が訪れようとしている気候だが、我々FC岐阜サポーターの心は、いまだ熱く保ち続けよう。今節も、最後まで勝利のため、戦い続け走り続ける岐阜の選手たちの背中を最後まで後押しする応援をしよう。まだ、2023年シーズンに冬を訪れさせる訳にはいかない。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第30節】岐阜 2-1 沼津

●大事な一戦、苦しみながらの勝利!!

この試合、山内寛史と浮田健誠の働きが光っていたと思う。山内はボールを受けて、はたいてスペースに走ってまた受けるという、実に9番らしいプレーぶりだったかと。先制点、流れるようなパス交換から北龍磨からのスルーパスに反応して決めたゴールはお見事。予想外に早い時間帯でのゴールは大きかったね。

浮田は右サイドでのプレーに徹して、たびたびチャンスを演出。山内の先制点も、彼の上手いターンで1枚DFを剥がしたところから始まっていったし、おそらくコンディションが万全でなく長い時間使えない窪田稜の代役を勤め上げてくれた。村田透馬の2点目、ゴール前で持ち過ぎかなとも思えたけれど、粘って粘って決めきってくれた。結果的に前半のうちに2点目が取れたことが大きかったね。

後半頭から沼津は、夏に追加登録された川又堅基を投入。彼の存在感はやはり大きかった。スピードは衰えた感はあるけど、足下の技術は錆びていない。しっかりとボールが収まる。沼津の前線も活性化、そして一点を返される。川又の得意な形だったなあ。

その後も沼津の時間帯が多くなったがどうか逃げ切り、8月の鳥取戦以来の勝利。

残り8試合、一戦一戦大事に戦っていくこと。そして後は相手次第。でも相手のことは考えず、自分たちのサッカーをやりきる事。とにかく悔いが残らないように。

(岐阜の誇り)

●ホーム連戦で勢いを付けたいところだったけれど、その初戦・福島戦は後味の悪い敗戦。決定力不足の攻撃陣を活性化させるために上野監督が選んだFWの組み合わせは、#9山内寛史と#11藤岡浩介、そして右に#15浮田健誠。と、これが試合開始直後から面白いぐらいに機能して。ボールを止めずに前にパスしながら敵陣を突破して、最後は#6北龍磨のスルーパスを#9山内が流し込んで先制点! いや、なにあの連携! しかも前半2分! できるんならいつもやってよね! …とまあ、試合前に暗雲立ち込めていた僕の心は手の平返的に晴れた(苦笑)のですが、やっぱり#9山内の、先制点もだけど味方を活かすプレーが効いていたと思う。ポストプレーが、味方との距離感やタイミングが(少なくともこの試合では)非常に合っていて、まさに“9番の仕事”。そして、前半24分には相手のボールを奪ってカウンター、持ち込んだ#7村田透馬が右足を振り抜いて追加点! …と書くところ格好いいんですが…あれ、ゴール決めてなけりゃ確実に後で怒られるプレーでしょ(苦笑)。左右に#11藤岡と#15浮田が走って、しかも相手DFは全員#7透馬に寄せてフリーでしたやん…まあ、『決めきったFWは正義』ですので、問題ないんですが(苦笑)。課題は、前半のうちに3点目が獲れなかったことかな…で、沼津はHTに#20川又堅基を投入。後半すぐは岐阜のペースで、しかし追加点が奪えずにいると、ここでベテランFW#20川又にしてやられる訳ですよ(溜息)。イヤな選手が沼津に加入したなあ、でもまだ無得点だから、このまま大人しくしてくれてたら…って思ってたのに(苦笑)。んで、やはり『2点差は危険なスコア』っていう一般的な格言が発動してしまう訳ですよ(溜息)。まだ1点差あるんだし勝てるんだから、気持ちを引き締め直してプレーすれば良いのに、なんだか焦って墓穴を掘るような場面が…約30分間、心臓に悪い長い時間が続きました。相手のミスにも助けられて、なんとか凌ぎきって2-1。いやあ、あっさり先制点が獲れた時には、『今日は快勝か?』って思ったけれど、やっぱり簡単に勝てる試合なんて皆無ですね。それを改めて思い知らされた勝利でした。

(ささたく)

●雨が降る前にやるコトやろうと屋台村。ハロウィン仕様のハート型コロッケ、同じ仕様のかぼちゃと鶏からの甘辛丼のアタマ。あと、白川町フランク。ナマ1杯と白川町のクラフトビール2杯。キックオフ前から大満足。

で、試合。いきなり、どうしちゃったんだ!? ってびっくらこいた開始2分のゴール。最終ラインから出たタッチライン沿いのグラウンダーを健誠が「練習でも、あんなにキレイに回れないだろ!」ってターンで抜け出しダイアゴナルに中へ、ソレをヒロフミがプリンスに渡し、さらに左に進入してきた龍磨からのワンタッチ・スルーでヒロフミが仕留める。なんだよ、なんだよ! そんなコトができるんなら、もっと早くやってくれよwなんか、ようやく、健誠が輝いたね。MOM級の活躍でした。もっと早くやってくれてたらなあ(苦笑)。前半のうちに追加点を取れたのが勝因だな。トーマは、もっと早く判断出来てれば。左右どっちもフリーだったゾ。でも、日頃から「とにかく、シュート撃て!」とも言ってるので、アレは十分合格点。決まったからね。

しかし、ホントにカワマタケンゴはオソロシイ。失点の場面は、彼がボールを持った時点で「あ、やられたな。」と思ったよ。やっぱり、雰囲気とレベルが違うね。後半からでよかった。というか、3点目、だよなあ。決めてればと思うのはゼイタクかな? その分、結果にはシビれたけどね。

とにかく、雨がそんなに降らなくてよかった。ポンチョは防寒具だね。座って見てる分にはあったかいよ。ゴール裏ではジャマなんだけどね。とにかく、希望は繋げた勝ち点3。次も勝たなきゃね。

(ぐん)

●いやあ、勝ってよかった。「勝ててよかった」じゃないよ。このあたりの『手応え』の違い、うまく伝えられないかもしれない。

まず、納得したのがFWの人選。スピードはあるが攻撃のコンビが合っていないチャーリーをサブに、そして、田口の代わりにヤマヒロ。彼がこんなにもまわりの良さを引き出せる選手だったとは。先制点なんか、「FC岐阜って、こんなに『連携した攻撃から得点』って出来たんだ!」と驚いたくらい(なかばマジ)。もうひとり、この試合で噴いていたのが右2列めの浮田。前回、リョウ君が脳震盪疑いの交代で入ったときはフィットしなくて浮きまくりだったのに、この日は見事にチームが求めている右2列めのプレーが出来ていた。ようやく『属人化していないサッカー』が観れた気がしたよ。

とはいえ、相手にはこの夏から入った川又堅基がいる。後半開始から投入された途端、沼津の前線が「水を得た魚」というより「大海原を得た回遊魚」って感じで生き返っちゃって。マジ怖かったよ。というか、「岐阜にほしいFWって、こういう人っ!」と思った。またしても『遥かなりモギシュー(クリーム)』になってしまったけど、これは相手の勝ちでした。かくして、一月半ぶりの勝ち点3になったわけだけど、この時期に「勝ち点3が一月半ぶり」ってあたりで、そこから今季でのJ2昇格をどうのこうの展望する立場ではないね。知られたマンガの台詞「諦めたらそこで試合終了」ではあるんだけど。

(吉田鑄造)

【第31節】FC大阪1-1 岐阜

●東大阪市花園ラグビー場。東の秩父宮ラグビー場と並び立つ、西のラグビーの聖地。まさかこの場所でサッカーを見る日がやってこようとは……しかも岐阜の試合で（笑）。

さて試合の方は……なんというか見慣れた光景というか、確実に決めるべくチャンスを窺っているのは分かるのだけど、手数を掛けすぎているようにも感じて、何とももどかしい展開。

後半、そうこうしているうちに右サイドから上げられたクロスにシンプルに頭で合わせられて失点……。その後、柏木陽介らを投入して、攻撃に変化を付けたりはしていたけれど、中をガッチリ固めたFC大阪に手を焼くばかり。ようやく88分、右から窪田稜のクロスに田中順也が頭で合わせて同点に。どうにか、ほんとにどうにか首の皮一枚どころか数ミリ繋がった……。ともかくまず奈良戦は勝ち点3がマストで！

（岐阜の誇り）

●前節・沼津戦で勝利、さあ連勝してJ2昇格圏を目指そう、上位対決で近場の大阪、かつJ3初参入にして専用スタジアム、しかも“ラグビーの聖地・花園”とくれば、そろそろ岐阜サポが大挙して押しかけますよね（笑）。さて、失点の少ないチーム同士、そして昇格生き残りのために大事な試合、互いに様子見しながらになるかと思いきや、序盤から岐阜が主導権を握る。前線にボールを運び、シュートも狙う。その姿勢は素晴らしい。だけど、フィニッシュに至るプレーの精度が、どうにも良くない。あるいは、シュートが浮いてしまう。まさか花園だからって、クロスバーの上を狙ってる（ラグビーのドロップゴール）訳じゃないと思うんですが（苦笑）、でもそれって、焦って撃ってる時によく起こるんですよえ。PA内でボールをダイレクトあるいはトラップした瞬間に撃ちに行く場面が少ないように感じた。同様に、足やボールを止めてプレーをする場面が多いのも気になった。まあ僕がそういうプレーを好まないからという理由も多分にあると思うんですが（苦笑）、ボールを止めるから相手が守る時間や、相手が寄せる時間を与えてしまっている。そこから急にダイレクトプレーしてテンポを上げて、剥がして一気に崩すんなら分かるけれど、同じテンポのまま、つかえて後ろに戻すのは…（溜息）。ポゼッション（パス）ばかりを意識してしまっているチームが陥る悪い癖が、この試合でも見えていた様に僕は思う。そして、そういう岐阜の傾向は相手チームに知られていて、『ゴール前を固めておけば崩されない』って思われている気がします。後半も攻め込むけれど得点は生まれずにいると、カウンター1発…（溜息）。中盤で不用意にボールを奪われ、偽SBの#14生地が不在のスペースを使われ、逆サイドを上がってきてる相手選手をゴール前でノーマークにすりゃ、そりゃ失点しますわ（怒）。このまま福島戦みたいに終わっちゃうのかなあ…と無然としていたら、#8窪田→#18TJの連携で同点ゴール！やっぱりボックス内では動き出しと連携が大事だったのを、他の選手は肝に銘じて欲しいものです、はい。逆転したい展開だったけれど、そこまでの勢いはなく、残念な引き分け。首の皮一枚つながった、と言うべきなのかもしれない。だけど、まだあきらめたくはない。

（ささたく）

●花園は5年ぶりくらい？もちろん、その時はラグビーだった。ラ式蹴球でなら10回以上観戦したことのあるスタジアム。だけど、ア式蹴球、サッカーを観るのは初めて。その意味ではFC大阪サンに感謝してます。いい経験をさせていただきました。

それにしても、相変わらず、いいスタジアム。駅からも程よい距離。そして、なんといっても球技専用ってのがね。やっぱり、専スタだよなえ。角度も十分。見やすいコト、この上もない。そして、自分的には4月のニンスタ以来のゴール裏。日陰になるビジョン下。最上段の席に陣取っての観戦は最高だった。風も涼しく、文字通りの観戦日和。コレで結果がつ

いてくれたら大満足だったんだけど……。

でも、久しぶりに観ていて楽しかった。特に前半なんかは圧倒的。その流れで得点出来ないのが問題なんだけどね。開始早々のFKからのシュート。クロスバーだったのか〜。前半の大阪のシュートはハーフタイム直前的一本きり。でも、シュートだったんだね。アレ。啞然とするようなミスが失点に繋がらなくてよかったよ。ソレ以外ではまったく攻め手がなかったような対戦相手。ウチにボールを持たせるのは作戦通りなのかな？ っていう、「なんで、長良川で負けちゃったんだろ？」って思っちゃった。で、そんな傲慢さがああいう失点を呼ぶんだね。いや、選手は真摯に戦ってくれてたよ。だけど、健誠のヘッドのように「惜しい！」じゃなくて決め切らないと。結果、ほぼ、初めてのシュートで失点するという流れになっちゃうよね。ああいうのを決めてきたからこそ、大阪は昇格したばかりでも、今の順位にいるんだよね。そういや、失点も少ないし、ここぞ！という時の集中力があるワケか。それでも、やっぱり、同点弾には興奮した。思わず、声が出ちゃうよね。この試合のTJは別格の働き。あとはリョウがフルに戦えてたらな。う〜ん。

この引き分けで順位を下げた。それでも、微かだけど望みはある。その瞬間まで足掻き抜いて欲しい。まずは、この奈良戦からだ！

（ぐん、）